

第八十一回 帝國議會衆議院

## 國民貯蓄組合法中改正法律案外一件委員會議錄(速記)第五回

付託議案  
國民貯蓄組合法中改正法律案(政  
府提出貴族院送付)(第六九號)付託議案  
納稅施設法案(政府提出貴族院送  
付)(第七〇號)

(一七六)

昭和十八年二月十八日(木曜日)午後二時十  
分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 由谷 義治君

理事木下 義介君 理事西尾 末廣君

理事山口左右平君

池田正之輔君

片山 一男君 駒井 重次君

下出 義雄君 長野 高一君

南鄉 武夫君 古田喜三太君

山野 平一君 吉田貞次郎君

出席政府委員左ノ如シ

大藏次官 谷口 恒二君

大藏省主税局長 松隈 秀雄君

大藏省國民貯蓄局長 氏家 武君

大藏書記官子爵 戸田 忠肅君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ  
國民貯蓄組合法中改正法律案(政府提出  
納稅施設法案(政府提出、貴族院送付)  
出席 貴族院送付)○由谷委員長 是ヨリ會議ヲ開キマス——  
駒井重次君○駒井委員 納稅施設法案ニ付テ御尋ネラ  
致シタイト思ヒマス、納稅施設法案ハ我ガ  
國ノ稅務行政ノ上ニ於キマシテ「ツノ割期  
ヲ致サレマシタ大藏當局ニ對シテハ大イニ敬  
意ヲ表シタイト思ヒマス、併シナガラ此ノ  
法律ヲ第一條カラ讀ンデ見マスルト、大體  
三十一箇條ノ此ノ納稅施設法案ノ中、命令  
事項ニ讓リマシタ箇所ガ二十箇所近クゴザ  
法律ヲ第一條カラ讀ンデ見マスルト、大體

アツテ、一般國民納稅者ノ理解ガ足リナイ  
ト云フ懸念ヲサレテ居リマス際、此ノ法律  
案ガ斯クノ如ク命令事項ニ多數ノ箇所ヲ讓  
仕方ニ依リマシテハ、或ハ實際ノ運用上如  
何カト思ハレル箇所モゴザイマス、成ベク  
命令事項ニ讓ラレナイデ、法律ノ上ニ明カ  
ニセラレテハドウカト云フ風ニ考ヘル點ガ  
ナイデハゴザイマセヌ、命令事項ノ要綱ヲ  
ココニ拜見致シテ見マスト、隨分此ノ中ニ  
ヘ、例ヘバ第七條ノ法人ノ納稅積立金デア  
リマスガ、「命令ヲ以テ定ムル租稅」ト云  
風ニ書イテアリマス、更ニソレガ「命令ノ  
定ムル所ニ依リ」ト書イテアリマス、少ク  
トモ此處ニ租稅ノ稅種位ハ法文ニ明カニセ  
ラレル方ガ簡明率直デ、一般ノ理解ヲ深メ  
ル所以デハナカラウカト考ヘテ居リマスガ、  
此ノ點ニ關スル御意見ヲ一ツ伺ツテ見タイ  
ト思ヒマス

○松隈政府委員 只今駒井委員ノ御述ベニ  
ナリマシタ點ハ沟ニ御尤モデアリマシテ、  
吾タト致シマシテモ、法律ヲ立案スルニ當  
リマシテ、出來ルダケ法律ヲ見レバ規定ズ  
ル内容ガ分ルヤウニ致シタイト云フ心構ヘ  
デ居ルノデゴザイマスガ、是ハ立法ノ技術  
ト致シマシテ、法律ニ餘り細カイ點マデ書  
キマスト法文ガ非常ニ冗長複雜ニナツテ、  
却テ分リニクト云フ點モゴザイマスシ、  
法律ニナルデアラウト考ヘマス、併シナガ  
ラ此ノ納稅施設法案ノ主眼ト致シテ居リマ  
ス點ハ納稅ト云フコトデアリマス、稅務當  
局カラ申サレルナラバ徵收方面ニノミ施設  
ノデ、ドノ程度ヲ法律ニ規定シ、ドノ程度  
ヲ命令ニ讓ルカト云フコトハ、大體立法ノ  
技術トシテ其ノ境ヲ適當ニ定メテ居ル次第  
デアリマスガ、納稅施設法案ニ於キマシテ  
ハ割合ニ細カイ問題ガ取扱ハレテ居リマス  
ル關係上、他ノ法律ヨリモ命令ニ讓ラレタ  
點ガ多イト思フノデアリマス、只今御指摘  
ニナリマシタ法案第七條關係ニ於キマシテ  
「法人稅其ノ他命令ヲ以テ定ムル租稅」トゴ  
ザイマスガ、是ハ法人稅ノ外ニハ、法人ノ  
臨時利得稅、法人ノ營業稅ハ當然ナノデア  
リマスルガ、法人ノ營業稅附加稅ヲ含メル  
カ否カド云フコトニ付テ多少考慮ノ餘地モ  
アリマシタシ、附加稅ノヤウナモノマデ法  
律デ列記スルノハドウカト云フ考慮カラ致  
シマシテ、結局命令ニ讓ルコトニナリマシ  
タノデ、ソコデ代表的ナ法人稅ダケヲ出シ  
テ其ノ他ハ命令ニ讓ツタヤウナ次第デアリ  
マス

○駒井委員 命令事項ニ付キマシテハ十分  
一ツ御注意ヲ御願ヒシタイト思フノデアリ  
マス、更ニ此ノ納稅施設法案ハ、先程モ申  
シマシタ通り、稅務行政ノ運用ニ付テ積極  
的ニ指導セラレルト云フ點ニ非常ナ特異ナ  
付キマシテハ豫テ苦心ヲシ、努力モ拂ツテ  
點ガアルノデアリマス、此ノ點ハ昨年ノ議  
會ヲ通過致シマシタ稅務代理士法ト相並ン  
テ我ガ國ノ稅務行政上ノ二ツノ異色ノアル  
施設、ソレカラ資料ノ蒐集ノ完璧ヲ期スル  
手段、或ハ決定ニ當ツテ商工會議所其ノ他  
民意ヲ徵スル施設、又ハ決定ノ異議申立ヲ

アツタ場合ニ於キマス其ノ再調査ノ促進ヲ  
圖ル施設等ニ付キマシテ、法律ヲ以テ制度  
ヲ定メタ方ガ宜シイト云フヤウナ結論ニナ  
リマスレバ、サウ云フ點ニ付テハ、今後ノ  
問題トシテ十分研究シテ見タイト思ヒマス  
○駒井委員 只今ノ松隈主税局長ノ御答辯  
ニ對シ、非常ニ満足ニ存ジマス、兎モ角我  
ガ國ノ稅務行政ノ劃期的向上進歩ヲ圖ル爲  
ニハ租稅全般ノ施設的ノ法規ガ必要デハナ  
イカト考ヘテ居リマス、ドウゾ此ノ點ハ近  
イ將來ニ納稅施設法ニアラズシテ、租稅施  
設法ヲ一ツ御考慮ニナル必要ガアルノデハ  
ナイカト存ジマス

更ニ此ノ機會ニ一寸御伺ヒシテ見タイト  
思ヒマスコトヘ、現行所得稅法ノ所得調査  
委員ノ制度デアリマス、所得調査委員ノ制  
度ハドウモ今日ノ稅務行政ノ運營ノ上ニ於  
キマシテ、果シテ適切ナル制度デアルカド  
ウカト云フコトハ疑ハシク考ヘル、此ノ點  
ニ對シテ將來改正ヲナサル御意見デモオア  
リデハナイカト考ヘルノデアリマスガ、之  
ヲ一つ伺ツテ置キマス

○松隈政府委員 現在ノ所得調査委員ノ制  
度ハ、御承知ノ通リ一定ノ資格ノアリマス  
ル納稅者ノ選舉ニ依リマシテ選出セラル  
者テアリマスガ、是ガ所得ノ調査ニ當リマ  
シテ、果シテ十分ナル效果ヲ擧ゲテ居ルカ  
ドウカト云フコトニ付キマシテハ世間ニ於  
テモ議論ノアル所デアリマシテ、是ガ改正  
案ニ付テハ大藏省ト致シマシテモ研究中デ  
ゴザイマス、選舉ニ依ル委員ヲ廢止シテ官  
選ニシタノガ宜イト云フヤウナ意見モゴザ  
ル委員トノ混合體ヲ以テ組織シタラ如何カ  
ト云フヤウナ意見モゴザイマシテ、内部ニ

○駒井委員 所得調査委員ノ制度ノ現状ヲ  
見マスルト、實際ニ於テ果シテ稅務ニ關シ  
テ十分ナル理解ト知識ノアル人ガ選バレテ  
居ル譯デハゴザイマセヌ、唯自分ノ町内ノ  
知ツタ人ノ所得ノ調査ニ付テ意見ヲ述べル  
ト云フ程度デアリマシテ、所得全般ノ問題  
ニ付テ調査委員トシテノ意見ナリ、陳述ナ  
リヲスルト云フコトハ不可能デアリマス、  
今日ノ現状カラ申シマスト、所得調査委員  
ノ懇意ナ人或ハ知ツテ居ル人ニハ、其ノ所得  
調査ニ當ツテ相當説明モシ、辯解モシテ吳  
レマスケレドモ、一般ハ此ノ所得調査委員  
トハ無關係デアリマス、斯ウ云フ制度ヘ今  
日ノ稅務行政ノ運營ノ上カラ申シマシテ、  
ドウシテモ改正ノ必要ガアルト思フノデア  
リマスガ、近イ将来直接稅ノ改正ノ際ニ十  
分ノ御考慮ヲ煩シタイト存ジマス

納稅施設法案ニ内容ニ付テ少シ細カイコト  
ヲ御伺ヒシテ見タイト思ヒマス、第一章ノ納  
稅團體ニ付テハ特ニ御伺ヒスルヤウナコトハ  
アリマセヌ、第二章ノ法人納稅積立金デアリ  
マスガ、此ノ第七條ハ中々重要ナル條項デア  
リマス、此ノ法人稅其ノ他ノ命令ヲ以て定  
ムル範圍ニ付テハ先程ノ御答辯了解シタ  
ノデアリマスガ、此ノ納稅積立金ノ計算ハ、  
是ハ法人自身ガスルノデアラウト思フノデ  
アリマス、自己計算ニ依ル納稅積立金デアリ  
マスガ、而モ此ノ第七條ハ強制規定デアリ  
マス、サウスルト法人ガ勝手ニ計算ラシテ、

○松隈政府委員 第七條ノ法人納稅積立金ハ、只今御話ノヤウニ法人ガ決算ヲ致シマシタ場合ニ於キマシテ、自己決算ニ依ツテ出テ参リマシタ所ノ利益ニ對シマシテ、稅法ヲ自ラ適用致シマシテ算出致シマシタ稅額ニ付キマシテ命令ノ定メマスル一定割合ノ納稅積立金ヲ積立テ、之ヲ特別勘定ヲ置ケバ宜シト云フコトニナツタノデアリマス、其ノ場合ニ於キマシテ自己計算ヲスルノデアルガ、自己計算ニ誤リガアツタナラバト云フコトデアリマスルガ、善意ニ於テ誤リガアツタト致シマスレバ、第七條ノ義務ハ果シタコトデアリマスルノデ、其ノ點ハ別ニ罰則ノ適用ヲスルト云フヤウナコトニヘナラナイト思フノデアリマス、現在ニ於キマシテモ堅實ナル經營ヲ致シマスル法人ハ、決算ニ當リマシテ何等法律ノ強制ハナイノデアリマスルガ、納稅引當金ナル勘定ヲ置キマシテ、一方ニ於テ經營ノ堅實ヲ期シマスルト共ニ、他方ニ於テ納稅ノ確實容易ヲ圖ツテ居ルヤウナ次第アリマスルノデ、其ノ制度ヲ法律化致シタ致シマシテモ、現状トサウ云フ場合ニ於テハ多ク達ハナイノデアリマスルカ、大體ニ於テ適實ニ運用ケレドモ、會社デアリマスル以上、決算ハ致シテ居ルノデアリマシテ、ソレカラ納稅引當金ノヤウナモノヲ積マナイ會社デアリマスルト、多少不慣レナ點モアリマスル

益ヲ少ク出スト云フヤウナコトヲスル虞ヘ  
ナイカト云フ點デアリマスルガ、會社ノ決  
算ト云フモノハ公表サレルモノデアリマシ  
テ、一方ニ於テ單ニ納稅積立金ヲ少クシヨ  
ウト云フヤウナ考ヘカラダケデ、決算上ノ  
利益ヲ少クスルト云フヤウナコトニナレバ、  
法人ノ信用問題ニモ關係シテ來ル、斯ウ云  
フコトニナリマスルノデ、旁此ノ規定ガ出來  
タ爲ニ決算ヲ作爲シテ利益ヲ特ニ少クスル  
ト云フヤウナ心配ハ先ヅナカラウト思フノ  
デアリマス、併シ法人ノ數ガ相當多イノデ  
アリマシテ、決算ガ十分ニ出來ナイヤウナ  
法人モ、數多イ中ニハアルノデアリマスル  
カラ、ソレハ今後此ノ法律ノ施行ノ曉ニ於  
キマシテハ出來ルダケ正確ニ決算ヲ致シマ  
シテ、法律ニ規定シテ居リマスル法人納稅  
積立金ト云フ勘定ガ置ケルヤウニ、指導ニ  
付テハ十分留意シテ參リタイト思ツテ居リ  
マス

滯納ヲ防止スルト云フコトハ、或へ其ノ目  
的ヲ達シナイノデハナイカト考へラレマス、  
此ノ點ニ關シテ一ツ御意見ヲ伺ツテ見タイト  
思ヒマス

○松隈政府委員 法人ノ滯納状況ヲ見テミ  
マスルト、大法人ニ付キマシテモ、又小  
法人ニ付キマシテモ、或ル程度ノ滯納ニアル  
ノデアリマスガ、納稅引當金ノヤウナ勘定  
ヲ持ツテ居リマスルモノト、サウ云フ引當金  
ヲ持タナイ法人ト比ヘテ見マスルト、其ノ  
滯納割合ト云フモノガ、引當金ヲ持ツテ居  
リマスルモノニ於テ非常ニ少ク、引當金ヲ  
持ツテ居ラナイヤウナ會社ニ非常ニ多イノ  
デアリマズ、ソコデ今後ノ施設ト致シマシ  
テハ、法律ノ施制ヲ以チマシテ、最初ハ極  
メテ低イ割合カラ出發致スノデアリマス  
ガ、五年後ニ於テハ、大體自己決算ニ依ル見  
込租稅總額ニ相當致シマスルモノヲ積立サ  
セルヤウニ致セマシテ、ソレニ依ツテ會  
社ノ經營ヲ堅實ニ致シマスルト共ニ、滯納  
ノ防止ニ努メタイト思フノデアリマス、數  
字ノコトヲ少シ申上ゲマスルト、公稱資  
本金百万圓以上ノ會社へ三千六百二十一ゴ  
件數ニ對シテ一割四分程度デアリマス、公  
稱資本金百万圓未滿二十萬圓以上ノ會社九  
千三百八十七ニ付テ見マスルト、納稅準備  
ヲ持ツテ居リマスル法人ハ、其ノ中四割四  
分程ニナツテ居リマス、其ノ場合ニ於テ調  
定件數ニ對シマスル滯納件數ノ割合ハ、二  
割一分程度デゴザイマス、公稱資本金二十  
萬圓未滿ノ會社ハ九万一千四百六十六程ア  
ルノデゴザイマシテ、是ハ約八八%位ノ多

キニ及シニ居ルノデアリマスガ、サウ云フ  
法人ニ於キマシテハ、納稅準備ノアリマス  
ル法人ハ、割合ガ非常ニ低クテ一割五分餘デ  
アリマス、其ノ場合ニ於キマシテ、調定件  
數ニ對スル滯納件數ノ割合ハ三割一分程度  
ニナツテ居ルノデアリマス、ソレデゴザイ  
マスカラ只今御述ベニナリマシタヤウニ概  
論シテ申上ゲマスレバ、納稅準備ヲ持ツテ  
居ル會社ハ大法人ニ多ク、小法人ニ少イ、  
ソレカラ隨テ納稅準備ヲ持ツテ居ル會社ニ  
於ケル滯納ガ少イノデアリマスカラ、大  
法人ニ於ケル滯納ノ件數ノ割合ガ少ク、小  
法人ノ滯納ノ件數ノ割合ノ多イト云フ點ハ  
御話ニアツタ通りデアリマス、此ノ點ヲ今  
後法律施行ノ曉ニ於テハ極力改善スルヤウ  
ニ努力ヲシテ參りタイ、斯様ニ考ヘテ居ル  
次第デアリマス

○駒井委員 只今ノ御説明デヤハリドウモ  
認定課稅ヲ受ケルヤウナ法人ハ、滯納ガ多  
イト云フコトハ事實デアラウト思ヒマス、  
サウ考ヘテ見マスルト、此ノ認定課稅ヲ受  
ケルヤウナ法人ト云フノハ、大體決算ニ於  
テ餘リ利益ガ出テ居ラナイ、同時ニ法人ノ  
納稅積立金ヲシテ居ラナイ、法律ノ期待ス  
ルヤウナ納稅ノ積立金ハサセラレナイト云  
ス、是ガ滯納致シマシタ割合ハ、調定ト  
セルヤウニ致シマスルモノヲ積立サセルト云  
ザイマス、其ノ中、納稅準備ヲ持ツテ居リ  
マスルモノヘ六割六分程度デゴザイマ  
ス、是ガ滯納致シマシタ割合ハ、調定四  
分之一對シテ一割四分程度デアリマス、公  
稱資本金百万圓未滿二十萬圓以上ノ會社九  
千三百八十七ニ付テ見マスルト、納稅準備  
ヲ持ツテ居リマスル法人ハ、其ノ中四割四  
分程ニナツテ居リマス、其ノ場合ニ於テ調  
定件數ニ對シマスル滯納件數ノ割合ハ、二  
割一分程度デゴザイマス、公稱資本金二十  
萬圓未滿ノ會社ハ九万一千四百六十六程ア  
ルノデゴザイマシテ、是ハ約八八%位ノ多

ナイト、一體此ノ法律ノ期待シテ居ルヤウ  
ナ、滯納スルヤウナ會社ガ自己決算ニ於テ  
法人納稅積立金ヲ果シテ積立テテ吳レルカ  
ドウカト云フコトハ疑問デハナイカト思フ  
ノデアリマス、モウ一度此ノ點ヲ御伺ヒ致  
シマス

○松隈政府委員 小法人ニアリマシテハ、  
會社ノ内部組織モ完備シテ居リマセヌ爲ニ、  
其ノ事業年度ガ終ツテモ、決算ヲ致サナイ  
放ツテ置クト云フヤウナモノノアリマス  
ルコトハ御説ノ通リデアリマスルケレドモ、  
公稱資本金二十萬圓未滿ノ會社ト雖モ其ノ  
大部分ガ必ズシモサウ云フヤウナ状態ニア  
ル譯デハアリマセヌデ、ヤハリ株主關係モ  
ゴザイマスルカラ、一定時期ニヘ決算ヲシ  
テ居ルヤウデアリマス、隨ヒマシテ其ノ決  
算ヲシタ場合ニ於キマシテハ、自己決算ニ  
基ク法人納稅積立金ヲ積立テサセルト云フ  
風ニ指導シテ參りタイト思フノデアリマス、  
尤モ法人ト申シテモ、殆ド法人ノ實體ガナ  
ク、名前ダケ法人トシテ居ルト云フヤウナ  
モノニアリマシテ、決算ヲセズニ放ツテア  
ルト云フモノニ付テハ、法人納稅積立金ヲ  
積立テサセルト云フ指導ヨリモ、先づ決算  
ヲ一定ノ時期ニスルト云フコトノ指導ヲサ  
セル必要ガアルト思フノデアリマス、其ノ場  
合ニ於キマシテ稅務當局ニ於キマシテモ指  
導幹旋ヲ致シマスルガ、或ハ稅務代理士ノ  
セル必要ガアルト思フノデアリマス、其  
ノ都會ニ於キマシテハ、稅務相談所モ出來  
テ居ルコトデアリマスルカラ、稅務相談所ニ  
ク必要ガアルト思フノデアリマス、小法人  
ノ場合ニ於キマシテ、一ツノ會計標準ノヤ  
シマス

○駒井委員 此ノ點ヘ非常ニ疑問グト思ツ  
テ居リマスガ、一ツ實際ノ此ノ法律運營ノ上  
ニ於キマシテ善處シテ戴キタイト思フノデ  
アリマス

○駒井委員 來稅金引當金ヲ十割計上シテ居ツタト云フ  
ヤウナ會社ニ於キマシテハ、今回ノ納稅施  
設法ガ實施セラレマスルト、大體初メノ事  
業年度ニ於テヘ稅額合計ノ三割程度ヲ積立  
テシメル、斯ウ云フコトニナリマスト、從來  
積立ヲシテ居ツタ會社ハ勿論稅金引當金ヲ  
十割計上スルノデアラウト思ヒマスガ、サ  
ウ云フ場合ニ此ノ三割ヲ超過シタ部分モヤ  
ハリ是ニ謂フ法人納稅積立金トナル譯デア  
リマセウカ

○松隈政府委員 納稅施設法案第七條ニ規  
定シテ居リマスル納稅積立金ハ法律ノ規  
定シテ居リマスル納稅積立金ハ法律ノ規  
定ニ基クモノニアリ、其ノ使用等ニ付テ制限  
デアリマスルカラ、サウ云フ指導ヲシテ行  
トカ、或ハ前三箇年ノ稅金ト云フヤウナモ  
ノヲ標準トシテ積立テルト云フコトモ一ツ  
ノ方法デハアリマスルケレドモ、前年ノ稅金デアル  
ウナモノヲ設ケマシテ、前年ノ稅金デアル  
トカ、或ハ前三箇年ノ稅金ト云フヤウナモ  
ノヲ標準トシテ積立テルト云フコトモ一ツ  
ノ場合ニ於キマシテ、一ツノ會計標準ノヤ  
シマス

○駒井委員 此ノ點ヘ非常ニ疑問グト思ツ  
テ居リマスガ、一ツ實際ノ此ノ法律運營ノ上  
ニ於キマシテ善處シテ戴キタイト思フノデ  
アリマス

○駒井委員 來稅金引當金ヲ十割計上シテ居ツタト云フ  
ヤウナ會社ニ於キマシテハ、今回ノ納稅施  
設法ガ實施セラレマスルト、大體初メノ事  
業年度ニ於テヘ稅額合計ノ三割程度ヲ積立  
テシメル、斯ウ云フコトニナリマスト、從來  
積立ヲシテ居ツタ會社ハ勿論稅金引當金ヲ  
十割計上スルノデアラウト思ヒマスガ、サ  
ウ云フ場合ニ此ノ三割ヲ超過シタ部分モヤ  
ハリ是ニ謂フ法人納稅積立金トナル譯デア  
リマセウカ

ガ特ニ嚴重ニナツテ居リマスルカラ、此ノ部分ハ之ヲ特別勘定トシテ戴ク積リデアリマス、其ノ以外ニ於キマシテ從來十割ノ納稅引當金ヲ持ツテ居リマスルヤウナ會社デアリマスレバ、是ハ一種ノ任意積立金トシテ勘定思ツテ居リマス。

スレバ、是ハ一種ノ任意積立金トシテ勘定ヲ分ケテ積ンデ戴クヤウニシテ參リタイト思ツテ居リマス。

○駒井委員 其ノ點ハ能ク分リマシタ、次

ニ第九條ニ稅務署長ガ義務ノ免除ヲスルコトガ出來ルト云ヲ規定ガゴザイマズ、此ノ

義務ノ免除ヲナシ得ル場合ハ、納稅成績ガ良好デアツテ將來滯納ノ虞ガナイト云フ場

合ニハ義務ノ免除ヲタルノダト云フコトニ

ナツテ居リマスガ、此ノ判断ハ中々難カシ

イコトデアリマシテ、何カ基準ガナイト、

唯單ニ將來滯納ノ虞ナシト云フヤウナ漠然

タル條件ヲ以テ免除スルト云フコトニナリカト考ヘラレルノデアリマス、此ノ點ハ如何ニ御考ヘデセウカ

○松隈政府委員 法案第九條ニ於キマシテ

稅務署長ガ納稅準備預金ヲ保有シマスル義

務ヲ免除スル標準ト致シマシテ「既往ノ納稅

成績良好ニシテ且ツ將來滯納ノ虞ナキトキ」

ト云フコトヲ命令案要綱ニ豫定シテ居リマ

スガ、御話ノ如ク是ハ抽象的ナ書キ方デア

リマシテ、是デハ稅務署長ノ專斷ニ陷ル

虞ガアルト云フコトデアリマス、只今持ツテ居リマスル腹

案ト致シマシテハ、直前三事業年度ニ於テ

租稅ヲ完納シタト云フモノニ付テハ、既往

事業年度ノ納稅成績良好ナルモノニ認定致

シタイト思ツテ居ルノデアリマス、將來滯納ノ虞ナキトキト云フノハ、是ハ稅務署長

ト雖モ中々標準ヲ設ケテ設定スルコトハ困難ナノデアリマスガ、大體ニ於キマシテ直

當ノ利益ガ舉ツテ居リマスレバ、サウ云フ會社ハ將來モ滯納ノ虞ナイモノトシテ取扱

ツテ宜シカラウト思ツテ居リマス

○駒井委員 只今ノ御説明デ非常ニハツキ

リシタノデアリマスガ、是非此ノ標準ハハ

ツキリシタ標準ヲ一つ定メテ戴クト云フコ

トガ必要デアラウト思ヒマス、ドウモ餘リ

抽象的ナ條件ヲ御定メニナルト、實際運營

ノ上ニ於テ甚ダ面白クナイ結果ヲ生ジマス

次ニ第三章ノ納稅準備預金ニ付テ御伺ヒ

シタイト思フノデスガ、納稅準備預金ハ法

人、個人何人デモスルコトガ出來ルノカト

云フコトヲ御伺ヒシテ見タイト思ヒマス

○松隈政府委員 御話ノ通り納稅準備預金ハ法

人、個人何レモガ之ヲナシ得ルコトニ

相成ツテ居リマス

○駒井委員 此ノ納稅準備預金ノ第十條力

禁止シテ居ル、或ハ差押ガ出來ナイト云フヤ

ウナコトガアリマスガ、是程嚴重ニ此ノ納

稅準備預金ニ對シテ取締、監督ヲスル必要ガアルノデアラウカ、法人ニ付テハ第八條ノ

規定ニ依リマジテ、是ハ強制規定デアラウト思フノデアリマス、併シ個人ノ場合ニ於

此ノ預金ヲ致シテ置キマシテ、ソレニ依ツテ利益ノ多イ時、或ハ資金ニ餘裕ナリマス時ニ於キマシテ、納稅時ニ於ケル納稅資

金ノ準備ヲ致サセルト云フ所ニ狃ヒドコロ

ガアルノデアリマス、ソコテ納稅準備預

押ヘラレテシマフト云フコトニナレバ、ド

ウモ納稅ノ確保ニハナラナイト思フノデア

リマス、ソコテ納稅準備預金ニ付キマシテハ原則トシテ其ノ引出シヲ租稅公課ノ納付

ニ充テル場合ニ限ルト云フコトニ致シマ

タリ、或ハ特ニ命令ヲ以テ定ムル場合ノ外

之ヲ差押ヘルコトガ出來ナイト云フ規定ヲ

置クコトニ致シタノデアリマス、ソレナラ

バ窮屈ダカラ納稅準備預金ヲシナクナルデ

ハナイカ、斯ウ云フ懸念ガアルト思フノデ

アリマスガ、納稅ト云フモノハ國民ノ義務

デアリマシテ、今日デハ租稅負擔ガ相當重

居ル譯デハナクシテ、或ル程度固マツテ、

クナツテ居ル、而モ納期ハ毎月ニ分散シテ

年ノ後ノ半分ニアルト云フヤウナ關係モア

リマスノデ、ドウシテモ平生カラ納稅準備

ヲシテ置クト云フ必要ガアルノデアリマス

カラ、其ノ必要ニ應ズルヤウナ制度ヲ設ケ

マシテ、其ノ必要ノ阻礙トナルヤウナ點ハ

渡ヲ受ケ得ルヤウナ人ハ詰リ資力ノアル人

シテ、旁此ノ預金ヲスル獎勵策モ一方ニ於テ講ズルコトニシマシテ、以テ此ノ狃ヒ

ドコロデアル所ノ納稅ノ容易確實ヲ期スル

○駒井委員 納稅準備預金ノ性質ニ付テハ

大體了解致シマシタガ、第十四條ノ「納稅準

備預金ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ズ、「是ハ納

稅準備預金ヲ他ノ者ニ讓渡ゼシメテモ差支

押ヘナイオデハナイカト云フヤウニモ考ヘマ

スガ、如何ニアリマセウカ

○松隈政府委員 此ノ點ハ只今モ申シマシ

タ通り、納稅準備預金ヲ折角シタノデアル

ケレドモ、他人ニ債權讓渡ヲシテシマフト

云フコトニナリマスレバ、結局納期ニ至ツ

テ其ノ準備預金ハ納稅ニ充テラレナイト云

フコトニナリマスノデ、此ノ規定ヲ置カナ

イト云フモトノ目的ガ達セラレ

ナクナル、斯ウ云フ虞ガアルノデアリマス、

其ノ場合ニ於キマシテ納稅準備預金ヲ讓渡

ヲ假ニ認メテモ、讓渡ヲ受ケタ方デ租稅ニ

シテ、旁此ノ預金ヲスル獎勵策モ一方ニ於

テ講ズルコトニシマシテ、以テ此ノ狃ヒ

ドコロデアル所ノ納稅ノ容易確實ヲ期スル

レデアリマスカラ向フ十箇年間ノ納稅準備預金ヲシテモ差支ナ、斯ウ云フコトニモナル譯ニアリマス、又金額モ非常ニ大キイ金額、實際ニ支拂フベキ稅金ニ數倍スル金額ヲ納程準備預金トスルコトモ出来ルコトニナリハシナイカト思フノデアリマスガ、例ヘバ其ノ金ガ今度必要ニナツタト云フ場合ニ成ベク是モヤハリ納稅準備預金トシテ他ノ人ニ依ツテ預金セラレルナラバ、是ハ其ノ金ノ讓渡位ハ認メテモ宜イヂヤナイカト云フニ實ヘ考ヘテ居リマス、次ニ第四章ノ租稅ノ貯蓄納付ニ付テ御伺ヒヲ致シマス、十七條カラ以下ノ規定デアリマスガ、大體ドウ云フ層ヲ狙ツテ居ラレルノカ、大所得者デアルカ、小所得者デアルカ、或ハドノ程度ノ階級ヲ目標トシテ居ラレルノカ、何カ御考ヘ、目標等ガゴザイマスナラバ、一ツ伺ツテ見タイ

○氏家政府委員 稟稅ノ貯蓄納付ノ制度ノ對象トナルモノハ、大體ニ於テ中流階級ガ多カラウト思フノデアリマス、大所得者ニ付キマシテハ、所得ノ中ノ半分又ハソレ以上稅トシテ出サナケレバナラスト云フヤウナコトガ隨分アルノデアリマス、サウシマスト、納稅金ノ倍額或ハ三倍ノ貯蓄ヲスルト云フコトハ中々困難デアリマス、又之ヲヤル爲ニハ外ノ貯蓄ヲ崩シテ來ナケレバ、出來ナイト云フヤウナコトニモナリマスノデ、貯蓄ノ振替リガ起ツテ貯蓄増強ト云フ目的ヲ達スルコトガ出來ナイト云フヤウナコトニナルト思フノデアリマス、隨ヒマシテ事實上餘リサウ云フ方面ノ人ハ之ヲ利用シナイダラウト思フノデアリマスルカラ、無理相當旨味モアルノデアリマスルカラ、無理

ヨシテ此ノ制度ヲ利用ジヨウト云フ人モナ  
イトハ限ラナイト思ヒマス、一回ノ貯蓄金  
額ニ付テ制限ヲ置キタイト云フ風ニ考ヘテ  
居ルノデアリマズ、又、此ノ對象ニナリマ  
ス所ノ稅ハ綜合所得稅トカ或ハ個人ノ臨時  
利得稅、サウ云フヤウナモノデアリマスル  
カラ、自然餘リ下層階級ノ人ニハ利用サレ  
ル機會ガ少イノヂヤナイカ、唯分類所得稅  
ニ付キマシテモ、斯ウ云フ制度ヲ認メルコ  
トガ非常ニ面白イト思ツテ居リマスノデ、  
勤先ナドカラ受取ル俸給、給料カラ差引カ  
レル稅、アレニ付テ此ノ制度ヲ適用シテ行  
クト云フコトニナリマスト、相當下ノ人モ  
ニナリマスカラ、最低ノ方モ亦制限ヲシテ  
利用ガ出來ル、ソレニシマシテモ餘り少イ  
金額デアリマスルト非常ニ手數ガ掛ルコト  
ニナリマスカラ、最底ノ方モ亦制限ヲシテ  
行ギタイト云フ風ニ考ヘテ居リマス、隨ヒ  
マシテ非常ニ大キイ所得者、非常ニ小サイ所  
得者、是ハ兩方抜ケルゴトニナツテ、其ノ中  
間ノ階級ノ人ガ主トシテ利用スルヤウニナ  
ルデアラウ、斯様ニ考ヘテ居リマス

御意見ガアリマシタラ伺ヒタイト思ヒマス、又只今金額ノ制限ヲ置クト云フ御話ガアリマシタガ、金額ハ大體ドレ位ノ制限ヲ御置キニナル御考ヘデアリマスカ、是モ併セテ〇氏家政府委員 此ノ制度ハ思付キハ宜イガ死法トナル虞ハナイカト云フ御心配デアリマスガ、是ハ實ハ實質的ノ利廻ト云フモノヲ計算シテ見マスト、三分五厘程度ニハナルノデアリマス、而モ斯ウ云フ仕組デアリマスカラ、税ト云フコトガ問題ニナラナイノデアリマス、十二年後ニ拂戻サレル、二十年後ニ拂戻サレルト云フモノニ付キマシテ、三分五厘程度ノ、税ノ課カラナイモノト云フノハ是ハ相當ノ利益ニナルト思フノデアリマス、又貯蓄ノ方面カラ考ヘて見マスト、給料ヲ受取ルナリ或ハ税ヲ納メルナリ、サウ云フ機會ニ此ノ貯蓄ヲヤツテ行クノデアリマスカラ、知ラズ識ラズト申シマスカ、割ニ税金ヲ納メタ積リデ貯蓄スルト云フヤウナ、俗ニ言フサウ云フヤウナ考ヘ方モココニ出来ルノデアリマスカラ、是ハ普及ノ仕様ニ依ツテハ相當利用者ガアルト思フノデアリマス、又年金ト云フヤウナ働キモ是デサセルコトガ出来ルノデアリマス、今毎月ナリ或ハ納稅ノ都度ナリニ此ノ貯蓄ヲシテ行キマスト、十二年後ナリ、二十年後ナリニハ、又ソレガ其ノ通リニ戻ツテ來ル、斯ウ云フコトニナルノデアリマスカラ、割ノ良イ年金ノ制度ト云フモノノ働キモスル、ソレカラ又景氣ノ好イ工場アタリデ働イテ居ル人達、今割ニ澤山ノ收入ガアルト云フ方面ニ對シテ之ヲ宣傳スルト云フコトニナリマスレバ、將來ノ家産ヲ造成スルト云フヤウナコトニモナリマスノデ、貯蓄

○駒井委員 私ノ質問ハ是デ打切りマス  
○由谷委員長 ソレデハ暫時休憩致シマス、  
尙ホ本會議散會後再開致シマスカラ、ドウ  
ゾ御參集願ヒマス

午後二時十一分休憩

午後三時二十分開議

○由谷委員長 ソレデハ休憩前ニ引續キ會  
議ヲ開キマス——片山一男君

○片山委員 大體ノコトハ駒井委員カラ御  
質問ガアリマシタカラ、殆ド盡キテ居ルノデ  
アリマスガ、残ツテ居ル極ク小サイ問題ニ  
付キマシテ少シ御伺ヒ致シタイト思ヒマ  
ス、納稅施設法案ノ第五條ニアリマス納稅  
團體ニ補助金又ハ獎勵金ヲ交付スルト云フ  
コト、是ハ至極結構ナコトト思ヒマスガ、  
斯ウ云フ獎勵金、補助金ヲドウ云フ程度ニ  
ドウ云フ團體ニ御出シニナルノデアリマス  
カ、其ノ範圍ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○松隈政府委員 法案第五條ニ於キマシテ、  
補助金又ハ獎勵金ヲ交付スルト云フコト  
ニナツテ居リマスガ、是ハ設立當初ノ補助  
金ヲ出シタイト思ツテ居リマス、豫算トシ  
マシテハ一組合當リ十五圓程度、外ニ團體員  
一人當リトシテ少額ノ金額ヲ見積ツテアル

ヤウナ次第アリマス、尙ホ此ノ補助金以外ニ現在納稅組合ニ對シマシテヘ、國ノ支出シテ居リマス國稅徵收交付金又ヘ府縣ヨリ市町村ニ交付シテ居リマスル府縣稅徵收取扱費等ノ中カラ納稅組合ニ對シマシテ獎勵金ノヤウナモノヲ出シテ居リマスガ、是ハ從來通り續ケルヤウニ指導シテ參リタイト思ツテ居リマス

○片山委員 分リマシタ、次ニ先ニ御答へガアリマシタケレドモ、第十七條ノ一番終ヒニ「當該租稅ノ納付アリタルモノ」トアリマスガ、此ノ「納付アリタルモノ」ト云フ意味ニ付テ、私少シ詳シク説明ヲ聽キタイト思ヒマス

○氏家政府委員 「法文ニ納付アリタルモノトス」ト書イテアリマスノヘ、租稅ノ納付ニ當リマシテ、租稅其ノモノノ納付ヲシナインデ、所定ノ戰時納稅貯蓄ヲ致シマスレバ、ソレデ納稅ヲシタト同ジ法律上ノ效果ガ發生シマシテ、納稅義務ヘ履行ガアツタト同じコトニナル、斯ウ云フ意味アリマス

○片山委員 大體分リマシタ、更ニ私ハ此ノ納稅施設法案ヘ非常ニ結構ナコトダト思ヒマスガ、此ノ中ニナイ所謂勞働貯金ト云フヤウナモノヲ御考ヘニナツテ居リ、或ハ御考ヘニナツクト云フヤウナコトヘナイデアリマセウカ、勞働貯金ト私ガ申シマスノハ、大體自由勞働者ノ貯金ヲ如何ニシテ吸収スルカト云フコトニ付テアリマスガ、或勞働貯金モ色々ナ關係カラ複雜ニナリ、或今日町村ニ於ケル自由勞働者ヘ個人々々ガ自由ニ雇ウテ居リマシテ、其ノ間ニ於ケルト云フヤウナ工合アリマス、勞働不足ノ今日、此ノ自由勞働者ノ勞働券ヲ町村長ニ

掌握サレテシマツテ、労働者ヲ雇入レントスル者ハ、町村長ノ所ニ行ツテ労働券ヲ買求メルト云フヤウナ方法ヲ取り、以テ労働ノ適正ナル配給ヲサセ、其ノ労働券ヲ以テ勞働賃金ニ代ヘテ拂ヘシメル、サウシタナラバ労働者ヲ求メントスル者ハ勞働券ヲ豫メ町村長ニ願ヒ出テ、是カラ自分ハ何月何日ヨリ何日マデ凡ソドノ位ナ労働力ガ必要ナシダ、ダカラ農業労働者ナラ農業労働者ハ一箇年或ハ半箇年ヲ単位トシテドノ位使フ、ダカラドノ位ナ労働切符ヲ發行シテ吳レ、ソシテ其ノ定メラレタ賃金ニ對スル勞働切符ヲ先ヅ求メテ、サウシテソレヲ以テ労働者ヲ雇入レル、即チ現金ヲ直接ニ拂ヘシメナイト云フ制度ニ致シマシタナラバ、労働者ハ適當ニ労働切符ヲ金ニ換ヘルベク、町村ノ指定シタ所ノ場所ニ交換ニ行ク、其ノ場合ニ其ノ料金ヲ適當ナ指示ニ依ツテ預金セシムル、サウシタナラバ從來ドウ云フ風ニ流レテ行クカ分ラナイヤウナ金ガ纏ツテ其處ニ受取ルコトガ出來ルノデアリマスシ、隨テ適當ナ國家ノ方針ニ基ク預金ヲ吸収スルコトガ出來ルノデハナイカ、斯ウ云フコトヲ考ヘルノデアリマス、殊ニ斯ウ云フ零細ナ預金ニアリマスカラ、ソレヲ預金セシムルニ付テハ其處ニ一ツノ望ミヲ持タス、望ミヲ持タス上ニ於テヘ、預金ヲ適當ナ一定限度ヲ決メテ、ソレ以上預金ニ蓄積ヲ進シニ致シタ者ニ對シテヘ、其處ニ異進的ナ利子ヲ附ケテヤルトカ、何カ割増金ヲ附ケルトカ、樂ミヲ以テ預ケサセルヤウナ方法ヲ執ツタナラバ、是ハ相當ノ預金ガ出来、尙ホ労働力ヲ適正ニ配給シテ行クト云フ上ニモ效果ガアリマスカラ、斯ウ云フヤウナ労働預金ト云フヤウナモノヲ御考ヘニ

ナツテ見タラ如何カト思ヒマスガ、如何ナモノデゴザイマセウカ  
○氏家政府委員 現在又今後ノ貯蓄増強上、御話ノ自由労働者ノ貯蓄ヲドウスル力ト云フコトハ、是ハ相當重要ナ問題デアルト考ヘルノデアリマス、所謂自由労働者ノ外ニ自由職業者ト申シマスカ、醫師、辯護士、辨理士、作家ト云フヤウナ方面ニ付テモ同ジヤウナ問題ガアルト思ヒマスシ、又農業ヲヤツテ居ル人デアリマシテモ、都會地ニ近イヤウナ場合ニ於テハ、野菜類ナドヲ作リマシテ、都會ニ賣リニ出マスト中々良い收入ガアル、斯ウ云フ方面ノ購買力ノ吸収モ從來閑却サレテ居ツタ嫌ヒガアリハシナイカ、是モ此ノ儘ニヘ放任シテ置ケナイト云フヤウナコトガ段々問題ニナツテ來ルノデアリマス、私共別ニ斯様ナ方面ヲ閑却シテ居ツタト云フ譯デハナイノデアリマスケレドモ、實へ此ノ方面ハ組織ガ出來テ居ナイ爲ニ捉マヘヤウガナイ、隨て收入ガ多クナツタカラ之ヲ貯蓄サセナケレバナラスト云フコトバカリデナク、勤人デアリマスト職域ノ方デ相當ノ貯蓄ヲサセラレ、其ノ上ニ地域ノ方デモ貯蓄ヲサセラレルガ、斯ウ云フ方面ノ人へ地域ノ貯蓄ハオ附合ヒデスルケレドモ、其ノ外ニヘナイト云フコトノ爲ニ均衡ヲ得ナイト云フコトモアルノデアリマシテ、段々出來ツツアリマスルケレドモ、性質上中々旨ク運ンデ居ナイト云フ憾ミハアルノデアリマス、御話ノ労働切符ト云フモノガ若シ出來ルモノナラバ、是ハ私共貯蓄ヲ扱フ者トシマシテハ非常ニ都合ノ

好イモノ、デアルト思ヒマス、併シ是ハ勞務行政ヲヤツテ居リマス方面ニ於テ斯ウ云フ制度ヲ作ツテ吳レバ、ソレニ乘ツテ色々貯蓄ノ上ノ施策ガ出來ルト思ヒマスケレドモ、貯蓄ノ必要ノミカラ勞働切符ト云フヤウナモノヲ作ル譯ニモ參ラヌグラウト思フノデアリマス、大變ニ結構ナ案トハ思ヒマスケレドモ、左様ナ次第デ私共トシテハ其ノ方面ト色々相談シテ見タ上デナイト、伺トモ申上ガルコトガ出來ナイ譯デアリマス〇片山委員 御話ヘ承リマシタ、此ノ點ハ一ツ特ニ御研究ヲ願ヒタイト思ヒマス、殊ニ農村ニ於キマシテハ今日ノ實情カラ考ヘテ見マスト、農村ノ總テノ生産物ヲ賣上ガタモノハ全部一應産業組合或ハ銀行ニ一應預金ヲシテ、其ノ中カラ自分ノ必要ナダケノモノヲ使ツテ居ル、斯ウ云フヤウナ情勢ニナツテ居リマスノデ、隨テ農村ニ於ケル信用組合ノ活動力ト云フモノハ村民ガ能ク信用上ノ點ニ對シテハ得心致シテ居ルノデアリマスカラ、此ノ勞働切符ナドヲ信用組合ニ扱ヘセタナラバ、私ハサウ云フ階層ノ預金ヲ吸收スル上ニ於テ相當預金ガ出來ルノデヘナイカト考ヘテ居リマス

尙ホモウ一つノ問題、是モ大藏省關係デハナイト思ヒマスガ、一ツ貯金ヲサセマス上カラ御考ヘヲ願ヒタイ問題ガアルノデアリマス、ソレハ町村ニ於キマシテハ物資ノ配給ガ大體二元ニナツテ居ル、一ツハ商工省カラ來ル所ノ配給ト、一ツハ産業組合ノ團體カラ來ル配給ト、此ノ二ツニ今ナツテ居ルノデアリマスガ、其ノ中商業組合ノ方カラ配給サレルモノハ、必要デナイ所ノモノハ大體自由販賣ニナツテ居ル、所ガ産業組合カラ流レテ參リマスル所ノモノハ必要

デアラウトナカラウト大體之ヲ分配シテシマフ、其ノ爲ニ必要以上ノモノヲ相當購買シナケレバナラナイ、ソシテソレヲ腐ラセテ行クト云フヤウナコトニナツテ居ルノデアリマシテ、所謂必要デナイモノヲ購買シテ行カナケレバナラナイ、ソレヲ自由販賣ニ任セタナラバサウ云フ所ニ金ガ流レズニ時金ニナツテ行クノデヘナイカ、此ノ點ガ今農村ノ一番困ツテ居ル點ダラウト思ヒマス、是ハ能ク商工、農林當局ト御懇談下サツテ、此ノ預金ヲ吸收サレルコトガ一ツノ目ノ付ヶ所トシテ相當有效デヘナイカトスウ私ハ考ヘルモノニアリマス  
ソレカラ今御話ガアリマシタ貯蓄組合デアリマス、貯蓄組合ヲ今日結成サセマシテ、色々々ナ會社々々デ拵ヘテ居リマセウ、又地域的ニ組合ガ出來ルノデアリマスガ、サツキノ御話ノヤウニ勤先デ貯蓄ヲサセラレ、更ニ自分ノ住居シテ居リマス所ノ地域的ナ組合ト、二ツノ組合ガ茲ニアルノデアリマシテ、隨テ一人ノ人間ガ兩方ニ附合フト云フ點ニ對シテ、私相當無理ガ將來行ハレテ來ルノデヤナイカト云フコトヲ非常ニ心配スル者デゴザイマスガ、是ハ其ノ人ノ所得ニモ依ルコトデアリ、又其ノ人ノ心掛ケニモ依ルコトデアリマセウガ、是等ヲ一ツドチラカニ其ノ人間ノ意思ニ依ツテ纏メルト云フヤウナコトハ出來得ナイノデアリマセウカ、此點ヲ一ツ御伺ヒ致シタイ

ヲ實ハ私能ク存ジて居リマセヌ、ドンナ都合ニナツテ居リマスルカ、農林當局ノ方ニ能ク聽イテ見マシタ上デ、果シテ御話ノヤト云フ點カラ考ヘマシテモ、洵ニ勿體ナイウデアルトシマスレバ、是ハ獨り貯蓄ノ上ウダト思フノデアリマスカラ、改善シテ貯ヘルモノナラバ直グニモヤツテ貰ヒタイト考ヘル次第デゴザイマス、又組合間ノ重複ノ問題デゴザイマス、是ハヨク何處デモ話ヘリ事柄デゴザイマスガ、大體ノ考ヘ方ト致シマシテ、御承知ノヤウニ昭和十七年度ニ於テ二百三十億、昭和十八年度ニ於テ二百七十億ト云フヤウナ、アア云フ大キイ金額ヲ貯蓄トシテ集ヌルコトヘ、是ハ並々ナラヌコトデアリマシテ、決シテ樂ヲシナガラ集メ得ル金ヂヤナイト思フノデアリマス、相當ノ苦痛ヲ國民ガ感ジルマデ生活ヲ切下ゲルト云フヤウナコトニナラケレバ、中々集マラナイ金デアラウト思フノデアリマス、現在職域デモヤラサレ、又地域デモヤラサレ、其ノ外ニ其ノ人ガ若シ在郷軍人デアリマスト、在郷軍人ノ貯蓄組合ノ方ノ貯蓄モシナケレバナラナイ、女デアリマスト大日本婦人會方ノ必勝貯蓄ノオ附合ヒモシナケレバナラナイ、子供ハ子供デ青年學校ナリ、或ハ國民學校ナリノ方面ノ貯蓄モシナケレバナラナイ、色々ナコトニナツテ居ルノデアリマス、併シ大體ニ於テ其ノ總テヲヤツテモ、本當ニモウアト餘地ガナイト云フヤウナ人ハ割合ニ少イノデハナイカト思フノデアリマス、サウ云フ程度ノモノニモ入ツテ居リマス、郵便年金ニモ入ツテ

リマス、ト云フコトヲ申シマスノハ、ソレ等ノ色々々ノ組合ガアリマスケレドモ、ソレヲ全部集メテ見マシテモ、組合貯蓄ノ金額ト云フモノハ、全體ノ貯蓄ノサウ大キナ部分ヲ占メルモノデハナイノデアリマス、昭和十七年度ニ於ケル貯蓄目標額へ全體トシリマス、ト云フコトヲ申シマスノハ、ソレ等ノ色々々ノ組合ガアリマスケレドモ、ソレヲ全部集メテ見マシテモ、組合貯蓄ノ金額ト云フモノハ、全體ノ貯蓄ノサウ大キナ部分ヲ占メルモノデハナイノデアリマス、昭和十七年度ニ於ケル貯蓄目標額へ全體トシリマス、勿論資力ノ低イ階級ニナリマスト、色ナ組合ニ分レテ貯蓄サセラレテ居ル、斯ノデアリマス、即チ全體ノ貯蓄ノ一割チヨツト位ノ所ガ貯蓄組合、其ノ組合貯蓄ガ色彩ナ組合ニ分レテ貯蓄サセラレテ居ル、斯ウ云フヤウナコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、勿論資力ノ低イ階級ニナリマスト、自分自身ガナス貯蓄ノ中ノ相當ノ部分ヲ組合貯蓄デ占メテシマフト云フコトニハナルト思ヒマス、是ガ資力ノ多イモノ程、自分ノスル貯蓄ノ中ニ占ムル組合貯蓄ノ割合ト云フモノハ少クナツテ來ルト云フヤウナフヤウナ人ハ、割合ニ少イノデハナイカト思フノデアリマス、殊ニ職域組合ノ貯蓄、組合貯蓄ダケデモウギリ／＼一パイダト云地域組合ノ貯蓄ハ所ニ依リマシテハ、相當ノ程度マデ行ツテ居ル所モアリマスガ、其ノ他ノ色々々ノ貯蓄組合ノ貯蓄ト云フノハマダ大シテ充實シテ居ラナイノデアリマス、大體ト致シマシテサウ云フヤウナ次第アリマスカラ、三ツ四ツ位ノ組合ノ貯蓄ヲソナイトヘ申上ゲ兼ネルノデアリマス、私モト云フ程ノコトハナイト思フノデアリマスガ、唯御話ノヤウナコトガ具體的ニ絶対ニサウ云フ場合ニ於キマシテハ、地域組合フ

隨テ手數料トカ價格ト云フモノニ付テモ決マリガナイ、其ノ爲ニ色々ナコトヲ言觸ラシマシテ手放サセル、而モ手放サセル時ニ隨分不當ナ値段デ買漁ルト云フヤウナ者ガアリマスコトハ御話ノ通リデアリマス、ソレデ今後益々小額債券ノ發行額モ増加シナケレバナラナナイ場合デアリマスカラ、現情ノ儘ニ放任シテ置キ譯ニハ行カナイト云フノデ、是ノ買上制度ヲ作ルト云フコトハ目下着々ト其ノ準備が進ンデ居ルノデアリマス、サウ云フコトニナリマスト、手數料モ一定スルコトデアリマスシ、又買上ノ價格モソレゾレ定メラレルコトト思フノデアリマス、唯此ノ債券ノ買上價格ト云フノハ、實ハ國債ノ價格ノヤウニ單純ナモノデハナイノデアリマス、籠落チト共ニ値段ガ大分違ツテ來ルト云フコトモアルノデアリマス、一定ノ標準ニ依ツテ之ヲ決メマシテ、サウシテ愈々ドウシテモ困ルト云フ場合ニハ、不當ナ値段デ賣ラナクトモ適正ナ價格デ買上ゲテ貴ヘルト云フ風ニ是非ヤツテ行カナケレバナラヌノデ、目下準備ヲ進メテ居ルノデアリマスガ、臨時資金調整法ノ改正案ガ目下他ノ委員會デ審議中ナノデアリマスガ、其ノ臨時資金調整法ノ改正案ノ中ニモ、ソレニ關聯スル規定ガ入レテアルヤウナ次第デアリマス

ガ、遞信省以外デ賣出シタモノハ相當手數料ヲ取ラナケレバ保管シナイ、斯ウ云フヤウナ形ニナツテ居ルコトハイカヌノデハナカト考ヘルノデアリマス、私ノ實際ノ體験談デアリマスガ、私ノ知ツタ男ガ公債ヲ持ツテ居ツテモ利子ヲ取ルノガ不便ダシ、郵便局ニ預ケタイト云フノデ持ツテ行ツタ所ガ、千圓ニ對シテ一圓八十錢ノ手數料ガ要ルト云フヤウナ工合デ、面倒ダカラ、賣ツテシマツタ、サウ云フコトニナリマスカラ、遞信省ガ預ルノデアレバドノ公債デアラウト、政府ガ發行シタ公債ハヤハリ無手數料ナラ無手數料デ預ツテヤルト云フ制度ニナツタ方ガ宜クハナイカ、換金シナクテ宜イノニソンナコトガ相當行ハレテ居ルノデハナイカト思ハレマスカラサウ云フ點ヲ特ニ今後御考ヘ置キヲ願ヒタイト思ヒマス

局員ノ間違ヒデヘナイカト思フノデアリマス、唯非常ニ事務ガ輻湊シテ居リマシテ、或ル郵便局デハ持ツテ來ラレテモオイソレト之ヲ受付ケナカツタト云フヤウナ例へ聞ニ付テモト云フヤウナコトデアリマスガ、實ハ今日ハ郵便局賣出ト云フ「マーク」ノ付イタ國債デモ、郵便局カラ賣出シテ居ルト云フモノハ殆ド問題ナラヌ程ノモノナノデアリマス、隣保消化ト云フ形ヲ取ツテ居ルノデアリマスカラ、郵便局ハ取次ヘ致シマスケレドモ、所謂郵便局ノ窓口カラ賣出スト云フモノハ極ク僅カニナツテ居ルノデアリマス、ソレデ郵便局賣出以外ト云フノハ郵便局賣出ト云フ「マーク」ノ付イテ居ラナイモノト云フ意味デアリマスレバ、又是ハ別デゴザイマシテ、郵便局デ無料保管ヲスルノハ郵便局賣出ト云フ「マーク」ノ付イテ居ルモノニ限ルノデアリマスカラ、其ノ「マーク」ノナイモノデアリマスナラバ無料デ保管シテ吳レナイ、斯ウ云フコトニナツテ居ルノデアラウガ、郵便局デハ無料デ保管シテ吳クサヘ付イテ居ルモノナラバ、百貨店デ賣出シタモノデアラウガ何處デ賣出シタモノデアラウガ、郵便局デハ無料デ保管シテ吳レル、斯ウ云フコトニナツテ居リマスノレカラ債券ニ付キマシテ大キイ額面ノモノト交換ヲ認メテハドウカト云フ御話デゴザイマスガ、是ハ債券ニ付テハ實行ガ中中困難デハナイカト思フノデアリマス、抽籤期ノ關係ナドモアリマシテ、交換スルト云フコトニナルト、端金ノ關係ナドモ起リ云フコトニナルト、端金ノ關係ナドモ起リ

考へラレルノデアリマス、殊ニサウ云フ交換ニ應ズル爲ニハ、普段カラ餘分ナ債券ヲ用意シテ置カナケレバナラヌ、サウスルトソレノ番號ノ關係ナンカモアリマシテ、是ハ餘程實行困難ナコトデヘナイカ、但シ國債ノ方ニ付テハサウ云フコトガ現在デモ行ハレルヤウニナツテ居ルノデアリマスガ、債券ノ方ハ一寸實行困難デアラウト云フ見透シデゴザイマス

○片山委員 濟ミシタ

○由谷委員長 一寸委員長カラモ關聯シテ承リタイノデスガ、今ノ片山君ノ御話ノ公債ノ郵便局保管デスガ、無論郵便局賣出ゾ「マーク」ノ付イテ居ルモノハ無料デヤツテ吳レテ居ルノ御説明ヲ俟ツマデモナイガ、實ハ郵便局賣出以外ノ公債ヲ郵便局ヤ銀行ニ保管ヲ頼ム下、片山君ノ御話ノヤウニヤハリ相當ノ手數料ヲ取ルノデス、利札ヲ取扱ガ面倒ダ、面倒デナイト云フヤウナ問題ヨリモ、公債自體ガナクナル、焼ケル、盜マレルト云フヤウナ保管ノ安全性ノ點カラ、モウ少し便宜ナ、詰リ所有者ニサウ餘分ナ負擔ノ掛カラヌヤウナ方法ヲ要求スル聲ガ強イノデアリマス、是ハ一ツ貯蓄運動ト云フ大キナ國策ノ點カラ見テモ、無論人手ノ關係トカ事務ノ關係トカ相當ナ困難ハアリマセウガ、大藏省デモ十分御考慮ノ必要ガアラウト思ヒマス

モウ一ツハ、ヤハリ片山君ノ御話ニナリマシタ 小額債券ヲ相當持ツト、之ヲ百圓ノ國債トカ、五百圓ノ國債ニ乘換ヘタイト云フ氣持モ可ナリアルノデス、隨テ御説明ノヤウニ、事務的ニハ、或ハ算盤のニハ可ナリ厄介ニハナリマセウガ、既ニ小額債券ノ公定價格が出來ル以上ハ、之ヲ巧ク組合ハセタ考ヘノ下ニ、纏ツ

タ百圓トカ五百圓トカ千圓トカ云ツタ國債ニ乘換ヘル點ヲ考ヘルコトモ、今後ノ長期戰ニ備ヘル貯蓄運動トシテ大事ナ點デハナイカト思ヒマス、是ハ今直チニ御即答モ出来兼ネルカモ知レマセヌガ、今後ノ施策ノ一ツトシテ十分御考慮ヲ願ヒタイト思フノデアリマスガ、如何デセウカ

○氏家政府委員 御話ノ郵便局賣出ノ「マーケ」ノ付イテ居ナイ國債ニ付テモ無料保管ヲ考ヘタラドウカト云フ御話デゴザイマスガ、一體普通ノ人ガ持ツテ居ルノハ郵便局賣出ノ「マーク」ノ付イタモノナノデアリマス、併シサウ云フモノデナイモノニ付イテモ無料保管ノ制度ヲ設ケルコトガ貯蓄増強ノ上ニ必要ダト云フ御意見洵ニ御尤モダト思ヒマス、色々ノ關係ガアリマスガ、一ツ研究シテ見タイト思ヒマス

ソレカラ債券ヲ國債ニ換ヘルト云フ問題デゴザイマスガ、是ハ實ハ債券ノ方ニ付テハ現在買上ノ制度ガナイノデアリマス、隨テ何トカ國債ニデモ換ヘラレナイカ、セメテ國債ニ換ヘラレナイカト云フ所カラ、國債ト換ヘテ吳レト云フ要望ガ隨分アルノデアリマスガ、是ガ正當ナ、適正ナ價格デ買上ゲラレルト云フコトニナレバ、強イテ國債ニ換ヘナケレバナラスト云フコトデモナイト思フノデアリマスガ、又一面カラ考ヘマスト、債券ヲ賣ル、賣ツタ其ノ金デ差當リ使フ譯デモナイノデアリマスレバ、金ノ代リニ國債ヲ渡セルト云フナラ、是亦非常ニ結構ナコトダト思フノデアリマス、隨ヒマシテ國債ト債券ノ交換、是ハ大イニ考ヘテ宜シイ問題デアルト思ツテ居リマス

○由谷委員長 ソレデハ本日ハ此ノ程度デ一つ終了シマシテ、次會ハ明日午前十時カ

昭和十八年二月二十日印刷

昭和十八年二月二十一日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局